

内子商店街

(内子まちづくり商店街協同組合)

愛媛県内子町

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

伝統的な町並みが残る商店街で、「まちの駅 Nanze」を拠点とし
活性化を目指す。

基本データ

所在地	愛媛県喜多郡内子町内子
人口	約 1.7 万人 (内子町)
電話/FAX	0893-44-2066 / 0893-44-6441
URL	http://www.uchi-machi.com/
会員数	52 名
店舗数	113 店舗 (小売業 53 店、飲食業 36 店、 サービス業 19 店、金融業 1 店、不動産業 1 店、医療サービス業 2 店、その他 1 店)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	高齢者、国内観光客 / 60 歳代、50 歳代

商店街概要

内子商店街は、江戸時代より流通の拠点として繁栄してきた歴史ある商店街である。周辺には創建 100 周年を迎える大正時代の芝居小屋「内子座」と伝統的建造物群保存地区「八日市護国」といった観光資源を有し、その中間に位置する立地環境にある。両観光資源には年間 50 万人を超える観光客が訪れ、その散策ルートである商店街を通過する年間の観光客数は 30 万人を超えている。

平成 24 年 4 月には、地域商店街活性化法の認定を受け、「街なかアート」、「はちまんフリーマーケット」などの新規イベントやスタンプカード化事業、ホームページ開設の取組に加え、年々増加する外国人観光客への対応のため商店街にゲストハウスを整備するなど、商店街の活性化を図っている。

取組の背景

地域住民と観光客が訪れる商店街を目指して

人口減少・少子高齢化や近隣市町への郊外型大型商業施設の進出によって、地域住民の内子商店街への利用意識は薄らいできている。

平成 20 年 4 月には西日本最大の郊外型商業施設が開業し、平成 23 年春に既存商業施設が幹線道路沿いへ移転・大型化し、商店街では最寄品・買回り品の売上が減少していった。昭和 58 年に 158 軒あった会員数は、平成 23 年に 80 軒にまで減少するなど、商店街は集客力向上のため人口減少や少子高齢化に対応した商店街の魅力向上が急務であった。

また、そのような中においても、「八日市護国」と「内子座」には、年間 50 万人を超える観光客が訪れているため、商店街はその散策ルートの中間に位置することを活かし、観光客の取り込みを中心に事業を進める必要もあった。それらを受け、今後商店街は交流人口と消費の拡大を図った取組を進めていく方針となった。

取組の内容

交流拠点「まちの駅 Nanze」の整備や チャレンジショップ事業など新たな取組を実施

商店街が持つ地域の交流空間としての魅力を向上させるため、交流拠点施設の整備・運営、空き店舗を活用したチャレンジショップ事業、商店街販売促

進事業など様々な取組を実施している。

商店街の拠点施設として平成 24 年に整備した「まちの駅 Nanze」は、高齢者や子育て世代など地域住民の交流の場となっており、駐車場・多目的スペース・公衆トイレなどを備えている。そのため、様々なイベントや教室が開かれるなど、商店街へ来街するきっかけとなる施設となっている。

内子町の伝統工芸品や地元食材を使用したスイーツなども幅広く販売しており、観光客が気軽に立ち寄ることができる場所にもなっている。



「まちの駅 Nanze」
古い町並みにとけ込んでいる



地元の特産品を使った
人気のスイーツ

また、商店街利用者へのアンケート調査で要望の多かった「魅力あるお店の誘致」「店舗数の拡大」を実現するため、明治時代の伝統的建造物や空き店舗を改装・活用したチャレンジショップを運営しており、ニーズに対応した新規出店の促進を図った。



空き店舗を活用したチャレンジショップでは地元特産の大洲和紙の小物を取り扱っている

さらに、商店街コラボギフトの企画や、農商工連携による新商品や商店街オリジナル商品の開発・販売、地域との連携にも取り組んでいる。それらの商品は、まちの駅で販売されるほか、ギフトカタログを製作し、お中元・お歳暮などの贈り物やふるさと納税者へのギフトとしても喜ばれている。

そのほか、休憩スペースやWi-Fiスポットの整備、スタンプカード事業などを通じて顧客サービスの充実に努め、また、行政・商工会・グリーンツーリズム協会などとの連携を図りながら地域色を押し出した多種多様なイベントを実施し商店街の魅力向上を図っている。毎年3回実施される「100円商店街」は、家族連れや子どもにも非常に人気で、平均して4千名を超える人が来街する。顧客と個店との商売による繋がりの再生だけでなく、「地域の商店主に子どもを知ってもらおう」という意味で、地域防犯やコミュニティ機能の強化も果たしている。



「100円商店街」で賑わう様子

取組の成果

新しいものが生まれる商店街に

「まちの駅 Nanze」を整備した翌年の平成25年は、歩行者通行量が前年比124%と高い伸びを見せるなど、新たな取組によって歩行者通行量や売上高が増加している。メディアでも多数取り上げられ、地域住民の交流スペースとしての役割に加え、観光客が商店街の中で内子町の魅力を感じられる場所としての役割を果たしている。

「まちの駅 Nanze」は行政などからの補助のほか、組合員による自己負担により整備を行ってきたが、現在は地元特製の果肉ソースを使った「プレミアムかき氷」や新ギフトの開発・販売、テナント誘致など常に収益を向上させるための努力を続けている。

また、チャレンジショップ事業などの取組の結果、飲食店・学習塾・旅行代理店・介護訪問ステーションなど、多くの新規出店をむかえることができています。

実施体制

現在の代表理事は40代の若手リーダーであり、商工会青年部部长経験者である。普段から商店街振興・観光振興・町並み保存や自治会活動など、地域の活性化を願い、行政や支援機関と連携して様々なまちづくり事業に取り組んでいる。商店街には若手後継者が多くUターンしており、40歳までの組合員のほとんどが商工会青年部に所属し、商店街の各種イベントを主催するなど商店街の活性化事業に積極的に参加している。一方、商工会女性部の前部長が商店街の理事であり、既存イベントの協力はもちろん、地域のお祭りの際に「かあちゃん市」を開催するなど商店街を拠点とした独自の活動を展開し来街者の好評を得ている。

キーパーソンからのコメント



内子まちづくり商店街協同組合 代表理事
大西 啓介

商店街はなくてはならない場所

家業を継ぐため内子町に戻り、商工会青年部の活動に参加するようになりました。仲間達と熱く語り合い、「内子座」など歴史的建造物や文化施設に恵まれた環境を活かして地域住民と観光客が会おう新しい何かを生み出そうと立ち上がりました。レトロバスの運行や、観光拠点「ビジターセンター」の整備など観光地にある商店街の特性を活かした取組をしています。

商店街は、そこに暮らす人々の人間らしさを感じることができる、地域社会に

【なくてはならない場所】です。そこに「観光」をプラスし、一体感をもってマネジメントし、商店街と地域の活性化につなげていきます。

将来子ども達に引き継げる商店街へ

今後は外国人をはじめとした観光客に内子の魅力を体感してもらえるように、古民家を改築したゲストハウスを増やす計画です。古い町並みを活かした商店街に新しい人を呼び込んでいき、将来子ども達が跡を継げるような環境を整えるため、魅力的な店舗を増やしていきたいと思っています。